

な か ま

発行

佐倉市立中央公民館
な か ま 編 集 係

〒285-0025

佐倉市 錦木町 198-3

電話 (043) 485-1801

2 ページ ブルースターのほほえみ ——— 菅原郁子

うちの庭 ——— 山影初子

3 ページ 一人の命は一人の命ではない! — 渋谷晟一

梅原猛先生のこと ——— 吉野一志

漢文の教科書

矢島とと

二十年ほど前、二カ月の入院を余儀なくされたことがありました。退屈だったそのときふと思いついたのが高校で習った漢詩です。漢文の教科書の最初は確か、「千里鶯啼緑映紅」(杜牧)。とりあえず唐詩選を買ってきてもらい、気に入った詩をくりかえしよみました。

あれから今日まで何らかのかわりで漢詩に親しんでいます。私にとって漢詩の魅力は簡潔なのに意味が深いことです。五字または七字にこめられた真意をおもいながら音読するのは心地よいものです。

普通、日本では訓読文(書き下し文)でよむので本来の詩の響きのよさはわからないといわれます。平仄も押韻も無視していません。漢詩の本は上に漢語の本文(脇に押韻の印がついている本もある)下に訓読文があり、あとに説明と、三段階にな

っています。漢詩を現代口語訳にすると実に冗長です。

そもそも、文字のなかつた日本へ漢字がきたのは二千年前です。日本人は漢字を使うためにいくつもの工夫をしました。漢語をそのまま日本語にまぜて使った。訓よみを発明した。かなを作った。

日本人が漢字を使いはじめるとして六百年かかったそうです。そして漢文を日本の文として読むために訓読法を発明しました。語順を異にする漢文(語順は英語と似ている)を日本語の語順に直す苦心の作でありました。訓読は句読点、送りかな、返り点(レ点、一二点、上下点など)を使います。この訓読法のおかげで知識人のものであった漢籍が一般民衆にも広まり、江戸時代には漢文学習ブームがおこりました。漢文の素養は日本人の血肉となりました。漱

石や鷗外も幼少から漢文の素読をし、漢詩もたくさん作っています。

明治時代には西洋文明を翻訳する課程で新漢語が作られました。日本製漢語が中国へ輸出されて中国語になったものも多いためです。先史時代より中国からは恩恵にあずかるばかりなので、中華思想も仕方ないと思っていました。これを知らずして少し溜飲が下がりました。

今は現代口語文の世の中ですが漢文のもつリズムや精神性を見直す声があります。もちろん漢詩は根強い人気があります。漢史、唐詩、宋文、元曲というそうですが、素人目にも唐詩はすばらしいと思います。なるべく書下し文を見ないでよむ、私はひそかな勉強法にしています。

秋の名詩を一つ

秋風引 (劉禹錫)

何処秋風至 蕭蕭送雁群

朝来入庭樹 弧客最先聞

(編集委員)

ブルースターの

ほほえみ

平成元年頃、子供たちの成長期に私はパートばかりに明け暮れ、子供たちはアルバイトに励み海外研修旅行に旅立ちました。汗で重みのあるカバンの中に『現代社会と自由の運命』という本がありました。やがて来る個の時代も人間的絆をつむいで良き社会であるよう念じ、送り出しました。

数年を経て、子供たちも独立しましたが、今世紀初頭は不況によるリストラの激化、風水害、海外でのテロや戦争など社会不安の中で生じたストレスから、逃がれるすべを模索しているとき、ふと手にした孫の万華鏡が私をとりこにしてしまいました。

私は、廃物利用でおもちゃの万華鏡を作り、光の反射や屈折の不思議な美しさに感動し、学ぶことを自分の楽しみにしようと思いました。

万華鏡は、英国の物理学者ブルースターが発明した科学玩具であるカレイドスコープ（光の性質を応用したものを）を改良・進歩させたものです。明治二十年代に流行し、未だナゾの部分もあるといわれています。

私は万華鏡の映像から三つの元気をもらいました。

一つは自分だけのオリジナルな色彩模様を転回により、多様に表現できること。二つ目は左右対称模様を和紙等を使い絵手紙が作成できること。三つ目は三角柱の鏡を用意し、自然の草花を先端に挿入し、デジタルカメラの空間チャンネルで幻想的連続花模様に見えること。それが私にとって浮世の戯れとも言えます。

この無限の模様が日用品等に実用化し、時代に残りゆくならば「モナ・リザ」はもとよりブルースターも微笑んでくれるでしょう。

（千成 菅原郁子）

うちの庭

今は梅雨のまつ只中。しとしと小糖雨の降る中を、狭い庭に作った小さな家庭菜園の野菜を採るため、私は傘もささずに庭に出たのでした。

キユウリは一日で二〜三割も伸びるのか、昨日より長く太くなっている。二本収穫し、ついでに青紫蘇の葉を採っていると、茂みの中で何やらピヨンと動いた。

見ると二十割位の黒い蛙でした。蛙といえ、小さなアマガエルしか知らない私は、この大形の蛙を見つけたとき、一瞬、驚き、同時に感動しました。普通、女性は蛙というと、キヤー、気持ち悪い、と思うでしょう。

でも私は、皆がいやがる蛙や、ヤモリも嫌いではないのです。何という名の蛙か、わからないまま眺めていると、丁度いい隠れ家が見つかった

とばかりにノコノコと、青紫蘇の茂みの中に姿を消しました。裏山から下りてきたのでしょう。たまには、引越してもいいもんだ、なんて。

うちの庭が気に入ったら、どうぞご自由に好きな場所を見つけて住んでも結構、大歓迎ですよ。自然が身近にあることで日々、新たな発見があり、楽しいひとときです。

気がつけば霧雨でも髪や服がビツシヨリと濡れていました。ついでにヤモリですが、夜、外灯をつけると、どこからか決まってヤモリがやってきて、灯りに群がる虫を狙っています。ジツと動かず。丸い目、吸盤のついた足は可愛くもあり、滑稽コウケイでもあり。同じ場所に同じ時刻に忘れずやってきて、翌朝にはもう居ません。不思議なことが一杯で、感動したり癒されたり、のんびり過ごす時も、必要だと思いませんか。

（城内町 山影初子）

一人の命は 一人の命ではない！

平成十八年度の志津公民館市民大学「健康学」で「心の健康」講座が開催された。講師は川副孝夫氏で、講師の直近での家族との体験談の後に「苦しい時、寂しい時、辛い時に、人は一人で生きられるか」のテーマで二人一組になり話し合うことになった。

私は相手の方に、大分県の佐伯より磯釣りのため、渡船で沖磯に渡ったときのことを話した。磯は、高さ・直径とも一・五メートルほどの一人しか乗れない磯だった。遠くには、佐伯の山間部と沖の水平線にいくつかの島が点在するのみ。釣りに夢中になり、ふと気づくと水面が足下五十メートルほどに迫り、釣具入れの底が水面に浸る。時々波が磯靴にかかる。潮位はあがり打ち寄せる波に餌や仕掛けの一部が流される。わが身が流されては一巻の終わりと…不安がよぎる。

携帯電話があればなあ、漁船でも何でも通りかからないかなあ…天に祈る思いだった。

人は「苦しい時や寂しい時、辛い時」に必ず人を求める。「人は、一人では生きられない。従って、一人の命は、一人の命ではない」ことを実感。人はお互いに響きあい、そしてお互いに求め合い回復していくことを知る。

わが国は、世界に例のない速さで少子高齢化の道をひた走り、さらに核家族化も進展している。五十年後には、六十五歳以上の人口が四十%にも達するという予測もある。独居老人は確実に増加する。この現象は他人事ではなく、あなたにも何時訪れるかも知れない厳しい現実である。独居老人対策には、お互いに心して取り組みたい…と実感する今日この頃である。即ち、「独居老人を一人きりにしない」地域ぐるみの対策が緊急かつ重要であると確信。(ユーカリが丘 渋谷晟一)

梅原猛先生のこと

先生に最初にお目にかかったのは、今から三十年ほどの遠い昔だった。先生のご尊父のトヨタ自動車工業の常務だった、梅原半二氏のご紹介によるものである。

一九七八年四月号の『芸術新潮』に猛先生が採り上げられ、それを読んだ私が梅原常務に、是非一度ご子息の猛氏のご自宅に伺いたいとお願いしたことから始まった。常務は私のお願いを即座に承知して下さり、卓上の電話を取り上げ京都のご子息の猛氏にお話して下さった。

『芸術新潮』には、京都東山の若王寺にある素晴らしい屋敷での取材記事であったから、私は大変興味を抱いたのである。

そのお屋敷の以前の居住者は画家の岡崎桃乞で、その前の住人は先生と同じ哲学者の和辻哲郎氏である。芸新に拠

ると、お屋敷の形ができたのは室町時代であるとのこと、更に興味が増し、是非一度お邪魔したいと考えて実現したのである。若王寺のお屋敷は哲学の道に沿った疎水を渡った所に入りがあり、そこから坂道を上がりきったところの冠木門を潜り、お屋敷の玄関に辿り着くという形になっていた。

玄関には奥様が出迎えて下さり奥のお座敷に通されたのだが、その玄関には新聞で見た辻晋堂作の「柿本人麻呂」像や、岡崎桃乞画の「鶏頭」があった。案内されたお座敷で待つと間もなく梅原先生が部屋に入ってこられ、父がお世話になっていきますと言う趣旨のご挨拶をされて、少々面食らった。歓談の途中奥様からお茶と和菓子が振舞われたのだが、その和菓子はお屋敷に近い「鶴屋吉信」のものだった。そして当日掘ったばかりの筍と山椒を頂いて帰った。

(上志津 吉野一志)

10月の黒板

健康講座 ～自然散策・城下町佐倉の巨木を訪ねて～

開設趣旨:健康ブームといわれる今、佐倉の森林と巨木を訪ね歩きながら、郷土を学び、自然を体感し、一番身近な運動であるウォーキングをしながら、幅広い年齢層がウォーキングを通じて交流を持つことを目的としています。

日時 平成19年10月27日(土)9時～12時 *雨天延期
対象 市内在住の一般成人 30名(先着順)
参加費 50円(保険料)
講師 森林と巨木を訪ねる会(中央公民館利用サークル)
学習内容 佐倉地区の森林と巨木の散策
京成佐倉駅南口 重願寺の竹林 城址公園 佐倉幼稚園
麻賀多神社 市立美術館(休憩) 旧印旛支庁跡地
甚大寺 京成佐倉駅(解散)
申込み 中央公民館へ電話 : 485-1801

問い合わせ 佐倉市立中央公民館 (第2・第4月曜日は休館日です)

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuuou/index.htm>

わくわく道

佐倉市民の森で、このお盆に体験した気味の悪い出来事。前方から軽四輪がやってきた。我々はそれがボランテイアの車と思い「ご苦労様」の気持ちで道を譲った。と、通り過ぎた車から、手を上げてやったのだから、有難うがい言ったらどうだ」の大声が。他に誰もいない森の中、予想していない罵声に驚かされ、

思わず「有難う」と大声を返した。と、その車が停まり、運転席のドアが開き、運転手が降りかかった。家内は思わず傍らの犬を抱き上げ小走り、自分も逃げの態勢。軽四輪はドアを閉めて走り去ったが、何ともうず気味の悪い瞬間であった。帰宅後、市の農政課に状況を説明、担当はその類のボランテイアは依頼していない、農家の車かと。あつてはならないと思う夏の嫌な一コマ。

あがとき



収穫の季節も終り、朝晩の気温もさがりほんとうに灯火親しむ候となりました。私の育った頃はテレビも、もちろんテレビゲームもなく、ラジオだけ。夢中で本を読み漢字を覚え本からの知識を得たものです。文字をもたなかった日本は中国から漢字を受け入れ、古代朝鮮の多大な影響をうけ

元前二千年頃に、秦の始皇帝が漢字の書体と篆書体、臣下は隸書体と定め、紀元前後から邪馬台国の卑弥呼のような為政者が、中国との外交上の必要性から漢字漢文による外交文書を作成、政治支配の具となりました。寄稿された原稿も日本語のもつ美しさと、奥の深さをご自分のことばで表現され、身近な問題や体験などすばらしいお話しをたくさん寄せられたことを感謝いたします。

(永見)